

和文主題(フォントはゴシック16pt)

和文副題(フォントはゴシック 14pt)

Title in English (font : times new roman 14pt)

●音村 一郎
Ichiro OTOMURA
サウンドスケープ大学
Soundscape University

●歌田 響平
Kyouhei UTADA
金沢音楽大学
Kanazawa College of Music

●著者人数が3名以上になる場合は
この表を下に追加してください。

キーワード：明朝、9pt、5語前後

keywords : Times New Roman, 9pt, about 5 words

要旨

このテキストは日本サウンドスケープ協会誌の原稿執筆の際の見本である。この見本の上に各自のテキストを流し込めば所定の書式の原稿ができる。元の原稿が MS-WORD である場合は、テキストを貼り付ける際に書式ごと貼り付けないように気をつける必要がある。文章は一度プレーンなテキストファイルとして保存してから貼りこむか、このファイルの上から直接書き込むようにした方が間違いが少ないと思われる。

原稿は、日本語もしくは英語による。要旨(日本語)と Summary(英文)は「論文」のみ必要。日本語と英語を合わせて最初のページの左半分に収まる程度とする。

原稿の送り先は協会誌編集委員会事務局とする。

Summary

This paper shows the way of writing copy of "SOUNDSCAPE".

If you use this template, you will achieve the file. The font used here is "Arial", 9pt.

1 原稿提出の基礎事項

原稿は見本ファイルに示すレイアウトによって、図表を含むハードコピーとともにテキストファイルの原稿を電子情報として提出すること。論文については、査読の結果掲載が決定するまではハードコピーを3部提出する。電子情報の提供は査読後で良い。図表は一般的なソフトによって読み取り可能な体裁とする。(表は MS-WORD など、図はビットマップ、jpg、gif など)

原稿は原則としてそのまま印刷可能な版下原稿とする。

1.1 ページ数

原稿は、以下に示す最大頁数はをこえてはならない。「論文」10頁、「レビュー」4頁、「解説」4頁、「レポート」4頁、「クリティック・ア・ラ・カルト」。「論文」の原稿の長さは、刷り上がりで、原則として偶数頁となるように作成すること。

1.2 表紙

原稿には表紙をつけ、上半分に表題、著者名、所属機関名(以上「レビュー」を除き英文付記)、連絡先住所、表および図の枚数を書き、下半分には編集者への希望事項をつける。表紙の次から通し番号をつける。

1.3 割付等

余白は上下が 25mm、左右が 20mm とする。段組間の間隔は、3文字分程度、行数は 54 行を標準とする。英文抄録、和文要旨、ならびに英・和それぞれ5語前後のキーワードをつける。これらを本文、図表、註とともに所定のページ数に収める。ただし「レビュー」に関してはこの限りではない。

2 本文の書き方

書式は見出しなどのスタイルを指定することでほぼ自動的に設定される。例えば註は「註」というスタイルを選択すると自動的に片括弧の簡条書きに設定される。

ヘッダやフッタは編集委員会において編集するので特に手を加える必要はない。

2.1 フォント

この見本ファイルに修められている通りのフォントタイプ、ポイント数を用いる。和文主題はゴシック・16pt、和文副題はゴシック・14pt 英文主題及び副題は Times New Roman・14pt とする。Windows のフォントを想定して書いているが、それ以外の OS を用いる場合にはこれに近い一般的なフォントに置き換えて作成すること。

2.2 図表

図、表それぞれ別の通し番号とし、必ずキャプションをつける。図表が多数にわたる場合は、枝番号を(a)(b)のように付けてかまわない。凡例は図中に示すか、キャプションとともに示すようにする。

図表の中で用いる書体は本文に準ずるが、状況に応じてポイント数や修飾などを変えてもかまわない。見にくくならない様に大きさに気をつけて作成されたい。

図表の例を以下に示す(表1及び図1)

表1 書式一覧

スタイル	フォント・ポイント
和文主題	MS ゴシック 16pt
和文副題	MS ゴシック 14pt
英文主題・副題	Times New Roman 14pt
要旨(見出しは太字)	MS ゴシック 9pt
Summary(見出しは太字)	Arial 9pt
見出し1	MS ゴシック 12pt
見出し2	MS ゴシック 11pt
本文(標準)	MS 明朝 9pt

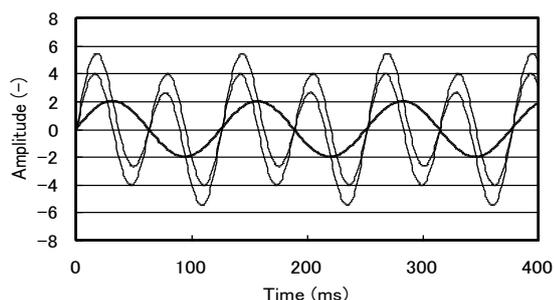


図1 例えば音波の波形の様子

2.3 註の書き方

註は、通し番号とし、本文中の該当個所に引用順に番号をつける(上付き片括弧)。例えば、……¹⁾といわれている¹⁾。末尾文献表には番号順に注を列挙。引用文献、参考文献は注として扱う。

文献の引用の提示の仕方は、雑誌の場合「全著者名：表題、雑誌名、巻(号)、頁一頁、年号」とする。図書の場合「全著者名：『表題』(出版社、地名、年号)頁一頁。」とする。

註 ……以下はすべて例

- 1) 笛吹童子, 静御前: 鎌倉・戦国時代の音楽, 桃山文化, 12 (3), 45-67, 1598.
- 2) K. Star: The damage risk criteria for keeping silence in USA, Amer J Sound Vib, 6(9), 1-11, 1998. (略称した雑誌名は、The American Journal of Sound of Vibrator です。ただし架空)
- 3) 前掲 1) p.48.

- 4) 金城桃治: 『琉球列島の音風景』(八重山書店、石垣、1990) 26-39.
- 5) R. Carson: Silent spring, (Fawcett Books, Greenwich, 1962) 22-33. ……翻訳の場合 全著者名(訳者): 『表題』(出版社、地名、年号)頁一頁.
- 6) M. ルインスキー(星憲司訳): 『ワシントン広場の声』(白亜社、東京、1999) 287 頁. ……原題をつけるなら M. Lewinsky: "How to be an intern" (White House Pub., NY, 1998)
- 7) 徳川慶喜、西郷隆盛: 蛤御門の変における砲撃音の周波数分析. 桂小五郎編『音でとらえる明治維新』(江戸屋書房、大阪、1880) 44-55 頁所収. ……)分担執筆の一部を引用するとき 全著者名: 表題. 編者(あれば)『表題』(出版社、地名、年号)頁一頁所収.
- 8) K. Hiramatsu: Nordic soundscape as encountered by a Japanese, Skandinaviska Musikaliska Tidskrift, 158, 77-88, 1989. 中河 真『平城京 音の曼荼羅』(十津川出版、奈良、1999) 88 頁に引用. ……孫引きのとき 原著者名: 表題, 雑誌名, 巻(号), 頁一頁, 年号. (執筆者がたった文献の) 著者『表題』(出版社、地名、年号)頁一頁に引用.
- 9) R.M. Schafer: "Quantum theory of soundscape" (DDT Inc., Toronto, 1984) Cited in A. Einstein: "Quantum physics"(PCB Press, London, 1989) p.22.
- 10)